

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 授業形態、教材の多様化に伴う既存教室の機器などの改善を図る。	→教室へのプロジェクター設置割合。教員の機器使用要求への対応率。	B	B			
2. 大学院生や研究員をTA (Teaching Assistant : ティーチングアシスタント)、そして学部3・4年生をLA (Learning Assistant : ラーニングアシスタント) とするチューター制度やメンター制度を確立させ、5年後にはTAを10名、LAを20名とした組織にする。	→チューターやメンターを担当する大学院生・研究員および学部上級生の数。および、1人あたりのチューターやメンターが担当する学生数。	C	C			
3. 会議など事務的負担を軽減することによって研究時間を確保する。	→学部で設置する委員会数。メールによる持ち回り委員会の開催数。	D	D			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目9.0.4	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 (説明) 教室への天吊プロジェクターの設置はC号館での設置率が約43% (08年度13%、09年度26%) であり、計画的に進行している。また未設置教室で使用する可動式プロジェクターも購入したため全教室で使用可能である。PC貸し出しも、ほぼ100%対応できており、2010年度にはシステムリプレースを行った。ただし、プロジェクターを含め、設置できない教員へのサポートやトラブル発生時の対応は、建物管理者だけでなく教務補佐も対応しているが、十分とはいえない場合もある。 学部生への初年次教育支援であるLA導入の検討はまだであるが、新中期計画でも見送りとなっている。 大学院生・研究員による教学補佐(業務1:授業支援)は23名が登録し、情報系を中心とした授業補佐をおこなっている。また学生ワークルームでは、教学補佐が交替待機による学習相談業務も行い、チューター・メンターとしての役割を担っており、授業期間中の月曜日から金曜日25コマのうち13コマに配置している。 教員による各種委員会委員数の減少、会議開催の効率化には至っておらず、メールによる持ち回り委員会も各委員会にて適宜おこなわれているが、個々の実数は把握していない。
☆	その他	

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【経済学部】			単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	人	25	37	20	23	17	
		実験実習指導補佐・教務補佐	人	3	3	3	3	3	
		授業補佐	人	0	0	0	0	0	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	15.3	17.0	16.6	10.5	16.0	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	13.6	12.8	14.7	12.1	10.5	
		講師	時間	11.0	10.0	—	20.0	—	
		助教	時間	—	—	6.0	8.2	9.3	

(その他の指標データ)

専任教員の研究費(実績)【大学基礎データ】

専任の研究旅費【大学基礎データ】

学内共同研究費【大学基礎データ】

教員研究費内訳【大学基礎データ】

科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】

学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】

外部資金等導入状況【基本的な指標データ】

教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】

学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】

学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】

学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】

留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目9.0.4	
☆ その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目9.0.4	
☆ その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目9.0.4	各種委員会のあり方および構成人数等の見直し。
☆ その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目9.0.4	各種委員会構成は毎年度初頭に発表されるが、委員会の開催数の把握と各委員会の活動実績を踏まえた委員会の見直しを行う必要がある。(2011年度中に把握、検討し、2012年度より)
☆ その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

☆ その他(自由記述)	2009年度に設定した「指標」のうち、会議数削減のための「メールによる持ち回り委員会の開催数」は把握が難しく、またその改善が事務的負担に相応するか否か議論が分かれるところである。
-------------	---

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○機器の設置など教育研究等環境の整備が進められていますが、研究時間の確保についても積極的な取組みが求められます。

【学内委員】

○メールの持ち回り会議だけでなく、委員会の抜本的な見直しのため、開催数・活動実績を2011年度中に把握・検討し、2012年度より実施することが期待されます（小項目9.0.4）。

○機器備品の整備が計画的に進められています。記述は具体的な数字を示されよく分かります。なお、大学基準協会の留意事項を参考にされた記述を加えられると、現状における目標以外の環境や条件についてより分かりやすいものになると思います。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

○小項目9.0.4&9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし